

2007 年度研究プロジェクト「多元的世界観の共存とその条件
－閉ざされた世界から開かれた世界へ－」
Research Project: Coexistence of Pluralistic Weltanschauung and Its Conditions
－From Closed World to Open World－

実施期間： 2005～2007 年度（第 3 年次）

Term of the Project: 2005-2007 fiscal years (3rd year)

研究代表者： 石川 文康 国際高等研究所特別委員／東北学院大学教養学部教授

Project Leader: Dr. Fumiyasu ISHIKAWA,

Project Representative on the IIAS Planning Board;

Professor, Faculty of Liberal Arts, Tohoku Gakuin University

研究目的：

2001～2003 年度に実施した課題研究「『ひとつの世界』の成立とその条件－鎖国の時代の日本とヨーロッパ－」の理念を発展的に継承し、ヨーロッパ中心の閉ざされた一元的世界観を脱して、人類の開かれた多元的世界がどのように成立するのか、またそれは今後もどのように形成されるべきか、そのための条件とは何か、それを主に 18 世紀の歴史的な努力に基づいて探求し、新たな展望を切り開き、また新たな方法論を試みる。

キリスト教世界として一元的に閉ざされていたヨーロッパが、近世に入ってどのように異世界と向き合うようになったか、同時に、逆に同じく閉ざされた世界であった中国や日本あるいはイスラム世界がどのようにヨーロッパ的なものを受け容れ、開かれた世界への準備をしたか、に新たなメスを入れる。

Objectives:

This project follows the previous project ‘One World and Conditions of its Formation’. It is intended to 1) research the formation of an open and pluralistic world growing out of the euro-centric and monistically closed Weltanschauung and 2) try to create a new vision and a new methodology based mainly on historical efforts of the 18th century.

前年度までの研究の概要：

2006 年度においては、正規メンバーと複数のゲストスピーカーによる発表が行われ、活発な議論が交わされた。それぞれの発表は、日独比較文化、ヨーロッパ哲学・思想のさまざまな思考法、ヘブライとギリシャとの関係、中国哲学におけるイスラムや仏教の影響、インド的寛容、ビザンチン社会構造、等に新たな光を当て、多元的世界観というテーマに大きく寄与するものである。

Achievement:

In all five seminars, lectures were given by all members and guest speakers. Each lecture brought us a new perspective on the theme ‘Pluralistic Weltanschauung’ and has already contributed exceedingly to our research.

キーワード: 多元的世界、開かれた世界、異文化間理解

Key Word: Pluralistic World, Open World, Intercultural Communication

研究計画・方法：

引き続き、年度内6回の研究会を予定している。適宜、ゲストスピーカーの招聘によって、研究内容に幅を持たせる。年度末に（あるいは、フォローアップ年度を視野に納めて）公開シンポジウムの開催を予定し、場合によっては国際シンポジウム（「フンボルト・コレーク」等）の実現に努め、最終的に欧文による出版の準備を開始する。

参加研究者リスト： 12名（◎研究代表者）

氏名	職名等
◎石川 文康	国際高等研究所特別委員／東北学院大学教養学部言語文化学科教授
中川 久定	国際高等研究所副所長
赤松 明彦	京都大学大学院文学研究科教授
井川 義次	筑波大学大学院人文社会科学研究科准教授
池田 紘一	長崎外国語大学長
岡野 薫	東北大学大学院国際文化研究科比較文化論博士後期課程
小関 武史	一橋大学大学院法学研究科准教授
高橋 輝暁	立教大学文学部文学科教授
堀池 信夫	筑波大学大学院人文社会科学研究科教授
増田 真	京都大学大学院文学研究科准教授
八巻 和彦	早稲田大学商学部教授
ヨリッセン,エンゲルベルト	京都大学大学院人間・環境学研究科教授

〔話題提供者〕（3名）

王寺 賢太	京都大学人文科学研究所准教授
中野 三敏	国際高等研究所フェロー／九州大学名誉教授
手島 勲矢	国際高等研究所企画委員／同志社大学神学部教授

研究会： 6回開催予定

- 第1回：2007年 4月 4日（於 高等研）
- 第2回：2007年 5月 18日～19日（於 高等研）
- 第3回：2007年 7月 20日～21日（於 高等研）
- 第4回：2007年 9月 28日～29日（於 高等研）
- 第5回：2007年 12月 14日～15日（於 高等研）
- 第6回：2008年 2月 19日～20日（於 高等研）

研究実績の概要：

本プロジェクトにおいては、一貫して、主に18世紀の思想的成果に基づいて、多元的世界観の共存の可能性を研究することが意図されてきた。過去三年間における毎回の研究会において、さまざまな世界宗教（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教）の共存関係、中国哲学・インド哲学とヨーロッパ哲学（特にドイツ哲学）の関係、日本文化とドイツ文化およびドイツ文学の影響関係、および18世紀フランス文学や文献（『百科全書』その他）に見られる多元的世界観、等に関する研究発表が行われ、それらに関する活発な議論が交わされた。また、正規メンバーの発表だけでなく、毎回招かれたゲストスピーカーの発表によって、本プロジェクトのテーマ展開のための補完がなされたことも、大きな成果であった。それらは、正規メンバーの守備範囲を超えた、ビザンチン文化、ユダヤ教、あるいは和古書のヨーロッ

パへの伝播とその保存状況、等に関する重要な報告であった。その結果、少なくとも部分的には、新しい研究への多くの門戸が切り開かれたことは、疑いえない。さらに、報告しておきたいことは、当プロジェクトは次の世代を育成するために、正規メンバー以外の若い研究者らを、オブザーバーとして研究会に参加する機会を提供したことである。

Whole Achievement:

This project was an attempt to research the possible coexistence of a pluralistic ‘Weltanschauung’ during the 18th century. In each of the seminars during the last 3 years, there have been creative presentations on the subject of coexistence among several representative world religions (Judaism, Christianity, and Islam), Chinese, Indian and European philosophy, Japanese and German culture, and on the pluralistic perspective found in French literatures of the 18th century. Presentations of guest speakers invited to participate in the seminars contributed to the development of our theme. Without a doubt, as result of this project, many new research projects have been inaugurated. It is also worthy of special mention that in accordance with our original idea of fostering an ‘open world’ and in order to encourage the next generation of young scholars, students who were not regular participants in the project were nevertheless invited to take part in the seminars as observers.

研究成果報告書： 2009年 5月出版予定

担当： 中川副所長